

令和7年度 学校評価（学校関係者（学校運営協議会）による評価）

【年間評価】

令和8年3月

「自己評価（職員による評価）」「児童アンケート」「保護者アンケート」、普段の学校の取組や児童・保護者・地域のことなどについて、今年度のまとめの評価と意見をいただきました。

【評価】

- ・取組の成果は全般的に良好。一方、保護者アンケートで「安心できる学校」「いじめのない人間関係づくり」「学校と家庭の連携」に関する「全く当てはまらない」が見られるので、重点的対応が必要。
- ・教職員アンケートでは思いやり育成や人間関係づくりの自己評価が向上してきている。
- ・学校の雰囲気は明るく、児童は伸びやか。教員と児童の信頼関係は良好。
- ・特別支援教育の充実に高評価。継続して特別支援教育の一層の充実を望む。
- ・子ども主体の安全掲示（廊下・階段ポスター）により安全意識の醸成が認められる。
- ・学校教育目標「自主性と協働性の育成」に沿って、職員が「考える・判断する・決断する・責任を取る」場を設定していて、成果が表れている。
- ・スローガン「スマイル＆ハッピー」を次年度も継続。安心・安全な学校づくりに寄与している。

【意見】

- ・タブレットについて、保護者アンケートで「家庭で活用できない」の割合が気になる。良質な教材の存在が保護者に未認知のケースがあるのではないかと。学校配布教材やドリル等の連携教材の周知・具体的活用案内を強化する必要。
- ・人員不足と年齢・経験のバランスの偏りが心配。人事異動・配置転換でのバランス改善を希望。
- ・地域学校協働活動を市民センター所長主導でコーディネートし、学校運営協議会で体制整備していく。教職員の負担軽減につなげる。
- ・チャイム後の行動など生活ルール意識の弱さが一部で見られる。「よい子の決まり」等の校則が保護者に十分伝わっておらず、文書再配布と周知徹底が必要。
- ・一部、登校時の挨拶が少なく、言葉遣いに課題。委員会が課題を認識し、挨拶運動の拡充に着手してはどうか。児童主体で継続・強化を進める。
- ・登下校見守りは学校職員の業務ではない。地域主体の見守り体制構築が重要。社会福祉協議会や民生委員・児童委員、その他各種団体等との連携を推進したい。
- ・休み時間の外遊び見守りを地域に委ねる方法を検討する。